



Kyo.Prot.N. 64/2020

## 2020年京都教区受洗者への司教の手紙

### ■京都教区へようこそ

洗礼志願者の皆さん、今年の復活徹夜祭で洗礼を希望されていたでしょうが、コロナウイルス感染でミサが休止になり、残念な想いをされていたと思います。ブロック毎に順次ミサが再開されますので、必ず洗礼式が行われます。もう少し待っていてください。京都教区の2019年の洗礼は、幼児198人、成人が143人でした。今年は新信者の集いが中止になりましたが、来年の集いでお会いできるのを楽しみにしております。その前に、新受洗者の皆さんを京都教区の信仰共同体の仲間として迎え、京都司教として、『ようこそ!』と歓迎の挨拶をおくります。

### ■神の選びの2つの意味

皆さんは、神に《選ばれて》、入信の秘跡をいただきます。この神の選びには2つの目的があります。一つは、信仰という恵みを受け入れるために選ばれていること、もう一つは福音をあかすために選ばれていることです。そして、この二つを切り離して考えることはできません。皆さんの中には、洗礼を受け、これからの新しい人生への希望とともに、本当にこれから生涯ずっと神を信じていくことができるだろうか、途中で信仰を投げださないだろうかと心配する方がいるかもしれませんね。

でもよく考えてみると、神を信じる決心というものは、人間の力で作り出すことができないものです。信仰は《与えられる》恵みです。神がイニシヤチブを取り、聖霊を通して、一人一人のこころを開き、『わたしは神に創られ、愛されている』という真理に目覚めさせてくださいます。古来、洗礼志願者は「照らされる人」と呼ばれます。信仰とは、人が努力して得られものではなく、あくまでも神に照らされた人が輝く恵みなのです。

そして、神の選びの第二の目的は、『救いの道具』である教会共同体に入るということです。キリスト者には、人々の救いのために働く使命が与えられます。これが堅信の秘跡の目的です。皆さんは、福音をあかすために、キリストにおいて信者同志お互いに結ばれます。この信者の交わりを大切に、特にミサにおいて信仰共同体の最高の体験をしてください。

### ■キリストの信頼に込めて

主キリストが、わたしたち一人一人に抱いておられる信頼と期待を忘れないでください。信徒として、これからの人生をどのように生きていくか、皆さんはこの「わたしの召命」を見つめながら、キリストの信頼と期待に込めてください。わたしたちは洗礼を受けた後も、人生の多くの試練にさらされ、時に悲惨で不可解な出来事の中で、信仰の喜びを感じられず、逆に辛さや悲しみを強く感じることもあります。しかし、そのような時でも、主は《助け主》である聖霊を通して、わたしたちのそばにいて、《みなし子》にはされません。皆さんは神の愛の宣教者として、神の愛に包まれて、あなたの周りにいる絶望と悲しみの内にいる人々に向かって、口先ではなく、愛があふれる行動によって、人々の救いのために奉仕してください。

洗礼、おめでとうございます。

2020年6月7日 三位一体の主日

カトリック京都司教

+ *Paul Y. Otsuka*

✦パウロ 大塚喜直